



2021年2月

東武鉄道株式会社

### 2020年度 第3四半期決算電話会議 主な質疑応答

※本内容は、書き起こしではなく、会議での質疑応答の内容を弊社にて簡潔にまとめたものです。あらかじめご了承ください。

Q. 緊急事態宣言が3月7日まで延長されることとなったが、今回発表した業績予想が下振れする可能性はあるのか。

A. その可能性はあると思うが、今回発表した予想では、特に鉄道事業の定期外の減少を厳しく見込んでおり、大きく下振れすることはないと考えている。引き続き動向に注視していく。

Q. コスト抑制に対する取り組みとその金額について。また、そのうち一過性のものと、継続的に効果があるものは。

A. 緊急性の低い支出の先送り等により、第3四半期までの実績で約190億円、通期では約230億円のコスト削減を見込んでいる。主な内容は、修繕工事等の先送りや業務委託費の見直し等であり、先送りのものが中心となるが、清掃業務委託のようにオペレーションを見直すことで、継続的にコスト抑制が図れるものもあると考えている。

Q. 第3四半期の3か月間では、計画比でいくら上振れしたのか。

A. 3か月間では、流通事業において昨年4月の臨時休業からの回復傾向が新型コロナウイルス感染再拡大により継続しなかったこと等により、営業収益は計画比51億円の減収となったものの、各事業ともコスト削減に努めたことで営業利益は計画比27億円の増益となった。

Q. 鉄道業における定期・定期外収入の通期見通しについて、どのような見方をしているのか。

A. 定期・定期外収入含め、年間では前年比3割減で見込んでいる。緊急事態宣言の再発出を受け、3月時点の定期外収入の回復想定を、前回の平年度比2割減程度から、4割減程度の回復にとどまるものと見直した。

Q. レジャー事業の収支改善の進捗状況は。

A. GoTo キャンペーン効果等により計画を上回った第3四半期までと異なり、第4四半期は緊急事態宣言再発出の影響を大きく受けるとみているものの、旅行業における受託事業の受注強化により、計画比増収増益を見込んでいる。

Q. 手元預金の流動性確保について、足元の状況と、今後の方針について教えてほしい。

A. 第3四半期では、前期末に比べ、現金及び預金が大幅に減少しているものの、子会社の決算期のずれを調整する仕訳が大きな要因であり、手元預金の流動性は確保できていると考えている。なお、東武鉄道単体として、今期にコミットメントラインの新規枠を設定しており、1,000億円程度の余裕はあると考えている。

以 上